

仕舞教範
全

特2
529

6 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



特260
529



東洋家政女學校編

仕

舞

教

範

全



仕舞教範

目次

西王母 <small>キリ</small>	草紙洗 <small>キリ</small>	吉野天 <small>キリ</small>	鶴亀 <small>キリ</small>	老松 <small>キリ</small>
八	六	四	二	一
羽衣 <small>キリ</small>	狸々 <small>キリ</small>	熊野 <small>曲</small>	小袖 <small>我キリ</small>	養老 <small>キリ</small>
一五	一四	一三	一二	九
羽衣 <small>曲</small>	高砂 <small>キリ</small>	蟬丸 <small>道行</small>	東北 <small>曲</small>	田村 <small>曲</small>
三五	三三	三一	一九	一七



立姿



著座の姿勢

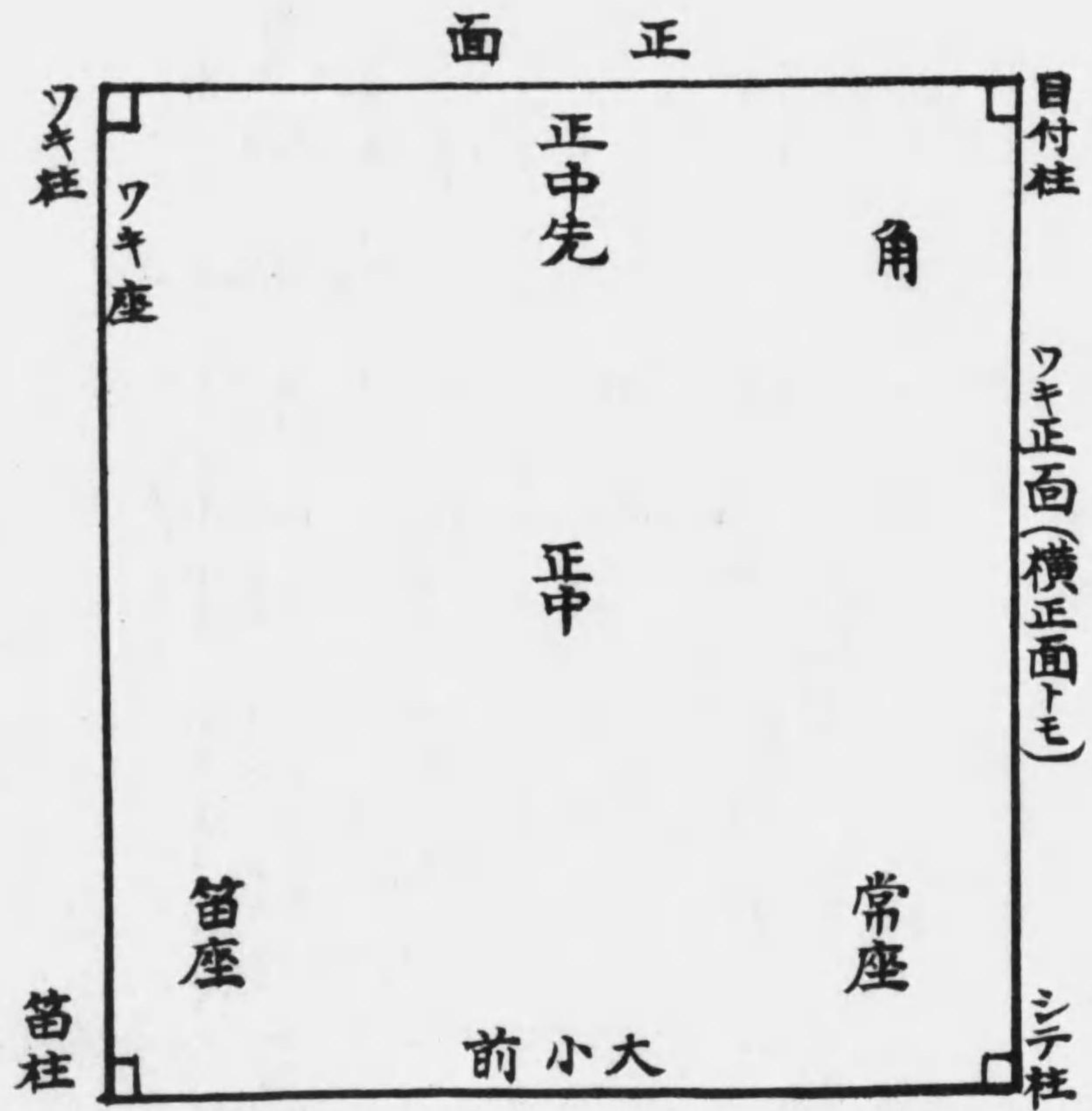


指込



下居の姿勢

舞臺の圖





扇をあげて
上を見る



雲の扇



かざし



閉



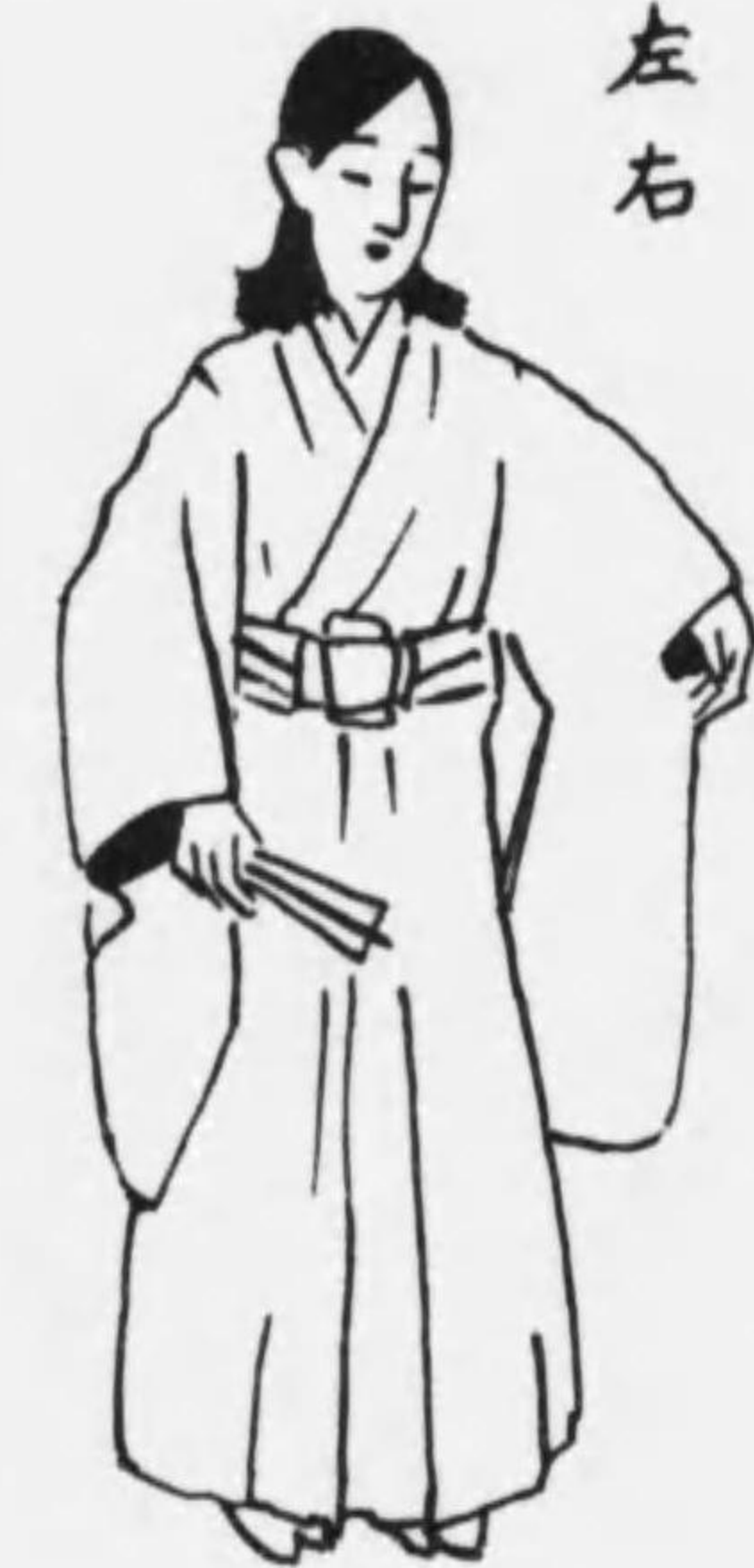
招き扇



胸指



指わけ



左右

老松
 老松
 松風も梅も
 びん

神託のつげを
 大小前ニテ

みれば行末ま
 扇カガシ左へマハリ

おはびをさづ
 立テ左足ヨリニ足下リ指テ角へ行キ

扇ヒラキ持テ下ニ居テ謡フ

老松
 キリ



枕扇



扇けむ



両勇けむ



扇下げて持つ

回リ角へ出 角トリ直シ 左へ回リ

牙えゆく雲の袂をひるかへ

す衣も薄紫は 雲の上人の舞

楽の聲ぐに 霓裳羽衣也

曲をなまば 山河草本國土

遊に千代萬代と 舞ひ給へ

左足ヨリニ足下リ指テ角へ行キ

官人駕輿了 侍輿を早め看

女齡も長生殿 君の齡も

長生殿に 還御ありて

下居トメル 夕てたけま

吉野天人キリ

扇開キ持下ニ居テ謡フ
ヨクエシシ女ニはハ幾ニ度ニもニ代ニをシくク

正中へ出指込ミヒラキ
なニぞニーニ岩ニほニむニつニまニせニぬニやニ

指テ角へユキ右へ小サクマハリ左手ノリ込ミ角へニ足出拍子ニツフミ
春ニ花ニのニ梢ニ上ニ舞ニ遊ニびニとニ

左足ヒキ正へ向下ニ居左ヒガツキ扇ワキへ出ス
びニらニがニんニ飛ニびニさニだニるニばニいニ

ノボリ

四

上^{マハリ}の^ハき^ニを^ニた^ニ恵^ニみ^ニ。活^ニま^ニる^ニ國^ニの^ハ

正へ出中ニテ指込ミ ヒラキ

天^ニの^ハ風^ニ。雲^ニの^ハ通^ニ路^ニ吹^ニき^ニと

右ウケ少し出指込ミヒラキ乍ラ雲ノ扇シテ

ぶ^{ツシ}や^シび^{上テ}女^{見ル}け^正姿^テど^体も^ヲあ^ナる^{ホシ}春^シ

角へ行右へハサクマハリ 角トリ直サズ

の^左霞^ヘも^{回リ}た^リふ^リび^リく^リ三^リ芳^リ野^リの^ハ

し^リら^リば^リ山^リ櫻^リう^リつ^リる^リふ^リ花^リ

ワキ座ヨリ 常座ノ方へ指

身^{ツメ}に^ハら^ハぶ^ハが^ハ又^ハさ^ハく^ハ花^ハを^ハ

扇カガシ左へマハリ

雲^{ツメ}に^ハの^ハり^ハて^ハあ^ハた^ハ咲^ハく^ハ花^ハの^ハ

大小前ニテ左右 打込ミ

雲^{ツメ}よ^ハの^ハり^ハて^ハ行^ハく^ハへ^ハと^ハさ^ハら^ハ

す^下ぞ^居成^トり^メに^ルけ^ルる^ル

草紙洗小町キリ

扇ヒラキ持下ニ居テ謡フ
霞立テば遠山ヨある朝ぼろ

地中左右へ左へ出ニ足中目左カケ右正面(ハスニ出)行カリニ足
け日影にえゆる松は千代

ヒキ打込ミ右一足出シ指込ヒラキ
まが松ハ千代まがで四海に波

ヒラキ
四方の國にも民の戸を

角トリ直シ

左へマハリ

もぎらぬ所代もて 堯舜也

大小前ヨリ正中へ出行カ、リ

佳例なれ 大和歌の起り也

ニ足ヒキ胸ガシ

ヒラキ

あゝぬの土りて 素盞

角へユキ角トリ直サズ

ワキ座へマハリ

シテ

鳴尊の守り給へる神國な

柱へ向キ

常座へサシツメ

れば花は都の春も長閑

扇カサシ左へマハリ

いに花の都は春も長閑

前ニテ左右打込ミ下居トメル

歌の道こそめでたけれ

西王母キリ

扇ヒラキ持下ニ居テ謡フ

立テ

花も酔了^{ミテ}や盃の^ニ花も酔^ニ

正へ出中ニテ 指込ミ

了^ニや盃^ニけ^ニ手^ニま^ニら^ニづ^ニさ^ニへ^ニぎ^ニる^ニ

左足一足出レ下ニ居 正へ右

曲水の宴^ニ名^ニ水^ニの^ニ水^ニの^ニ戲^ニ

ヨリニツガツシ 立テ左へマハリ笛座ノ方ヨリハス中へ出

花^ニた^ニは^ニむ^ニふ^ニた^ニも^ニや^ニる^ニの^ニ

指分ケ

角へ行キ

袖も裳裾もたふびきりなび

右へハサクマハリ角へノリ込ミ左手出シ拍子ニツム

く雲は花鳥春風は和

ヘマハリ

ワキ座ヨリシテ柱へ指シ

雲路にうらりば五母も伴ひ

ツメ

扇カザシ左へ回ハリ

攀手ぢのぼる五母も伴ひ上格

東小前ニテ左右打込ミ下居トメル

天路はゆくと知りぞりまける

養老

扇開キ持下ニ居テ謡フ立テ正へ出

君は船長と船臣の水

ツヨク

中ニテ指込ミヒラキ

ふら船を浮かめ浮かす

正へ左ヨリニ足出

ふら船を浮かめ浮かす

勇ケンニツシナガラヒラキ

幾久しきも盡すや

養老

盡正へ体ヲ直シきせど右へ回君にひかりを水

の真沖へ出りかも澄む時は下も濁ら

ぬサシテ角へ行キ瀧つれ水の浮きたつ波の

返角ニテ扇カザシ左へ回リつすぐよき御代をい

よき御代をい万歳の道に

帰大小前ニテ左右打込ミ下居トメルりなむあまの道に

かへりあむ

小袖曾我キリ

^{ヨク}舞ハのハかハぎハのハ其ハひハまハにハ

扇ヒラキ持下ニ居テ謡フ

^地立テ兄ハ弟ハ目ハをハしハきハまハらハしハやハ

正へ出三足目カケ

角へユキ

^カかハぎハりハぬハ親ハ子ハのハ契ハりハとハ思ハ

角トリ直レ

左へ

^ハばハ涙ハもハつハきハせハぬハ名ハ残ハりハをハ

常

座ヨリワキ座へムキ左足ヨリ中へ出 指込ミヒラキ 下ニ居

一の狩場に逢ふあり

両手ツキ

正面へトリ出テ右一足出レ指込ヒラキ六拍

んと暇申して帰了山のふ

子

どげろりの折をええ

左ヨリ正へニ足出

勇ケンニツシナガラヒラキ

年本ばかりたま本望を

げむと互よ思ふ嘆息は

正面へ体ヲ直シ

左ヨリニ足下リ右へハズシ霞ノ扇シテ正先へ出 右足ニテ

のほむぬのけむりを富士に

トメ

右へキリト回り雲ノ扇シテヒラキナガラ正面上ノ見 左ノ方へ指テ

ろいよもろいよと月と清見

少し出左ノ足カケテ右ヲフカク受扇ヲ上ゲテ大小並前へノリ込

が関に終るはその名をとめ

右ヨリ拍子ニツム正面へ向キ

指込ミ

なび兄弟おわ孝行はため

ヒラキ

打込ミ下居トメル

いにあらむふりてお

熊野クセ

扇タミ持下ニ居テ謡フ

立テ正へ出

立ち出で、峰の雲花やあ

中ニテ指込ミヒラキ

左右打込ミ 扇ヒラキ前へ出ス

ぬ初櫻の祇園林下河原

謡ヒナガラ上ゲ 扇ヒラキ

大左右(左へ)

南を遙に眺むれど大悲擁

三足出)左拍子(ツツミ (扇ヲ上ゲテワキ正へユキ)

蓮は薄霞熊野権現の移

右足カケ正中先へ打込ミナガラ出ヒラキ

りま^レす^レ市^ノ名^も同^ト今^ニ然^レ野^ノ

指マハシ^レ左足ヨリニ足ヒヤ指右ノ方前^ノ右ヨリニ足出^ルヒラキ

稻^ノ芳^レ山^ノの薄^レ紅^レ紫^レの青^レ

常座ヘユキ左足カケ正面ヘムキ指テ右足ヨリ脰ヘ行キ

リ^ト葉^ノの秋^ニ又^ニ花^ノの春^ニ清^レ水^ノ

グシ左ヘマハリ

の^ちた^レが^レ軟^レめ^レ軟^レも^レま^レま^レも^レ千^レ

下^ニ居^ルトメル

の^下巻^ノ盛^ル

猩々キリ

扇ヒラキ持下ニ居テ謡フ立テ大左右(三足ツ)

正中先

ツヨク^レよ^レも^レ子^ノも^レく^レ万^ノ代^ノま^レぐ^レ竹^ノ

ヘ打込ミヒラキ 左ヘハズシ左ヨリニ足出ナガラ 扇ヲ

の^ニ葉^ノの酒^ノく^レ冬^ノも^レ盡^レき^レず^レの^ノ

左手ヘトリ正面ヘニ足出ナガラ 扇ヲ平ニシテ前ヘ出ス

め^レも^レか^レら^レぬ^レ秋^ノの^ノよ^レの^ノ盃^ノが

ヲサゲテ左ヘマハリ 大小前ヨリ正先ヘ出 左足ヒヤ

げ^レも^レか^レた^レむ^レく^レ入^レり^レは^レま^レか^レれ^レた^レつ^レ

ヨリニ足サガリ片手ニテ招ギ扇ニツシテカテ正面先へ出ヒラキ

寶元満カスはたカスらカスをカスふカスりカス國カス出カス

左ヨリニ足出扇ヲ左ニトリヒラキガテ扇手ニ前へ出ス扇ヲ下ケ左へマハリ

いカスれカス施カスしカス給カスふカスるカス程カスのカス時カス

常座ニテ右カケワキ正面左ヨリハスニ足ツメ羽根扇ヲシテカテ

移カスりカス天カスのカス羽カス衣カス浦カス風カスよカスたカスらカスびカス

出右足ニラトメ

きたカスなカスらカスびカスとカス三カス保カスのカス松カス原カス浮カス島カスがカス

扇折込中ヒラキガテ角方へテ見扇右持直ヒケカテ

雲カス々カス養カス鷹カス山カスやカスふカスのカス高カス嶺カスがカス

角トリ直サズ左へマハリワキ座マテ常座ニ方へ指ツメ

すカスかカスらカスりカスてカス天カスつカス空カスけカス霞カス

ニテ左右打込ミ下居トメル

にカスまカスがカスらカスれカスてカス失カスせカスにカスけカスらカスまカス

大小前

田村名

扇夕、ミ持下ニ居テ謡フ
ヨハク 中ノミ
さぞな名うらなふ花の都

の春は空けし時めける粧ひ春
左一拍子正へ出

陽の陰みどりしそ風長閑なる音
指込ミヒラキ
大左右(三足ツ) 正先へ

羽の瀧の白絲れり返アかへ
打込ミナガラ正面ヲ見テヒラキ 角へユキ 角トリ

直シ

正面ヲ見テ左へマハリ正へ出指込ミヒラキ 正面ヲ見ナガラ

しての面白から有難から地ま権

佐右打込ミ扇ヒラキ前へ出ス

現け花の色もくもり唯頼め

標茅が原けさくも草我世

(左へ三足出)

の中にあん限りハの侍誓願

ラエゲテワキ正へユキ

じりものを清水はまじりさす

右カケ任中先へ打込ミナガラ

也青柳のげも枯れたる本

直シ 左へマハリ

りも花桜本は粧ひぞくの春

へユキ 右へハサク回リ角へ出下ヨリ扇ヲ上ゲテ

も柳なめて長閑けき影は有

右ノ方上ヲ見 扇カガシ左へ回リ

明の天も花はまじりやむし

大小前ニテ正面ヲナガメナガラ左右打込ミ下居ル

ろれまぐやあら面白の春べや

目付

目付

十八

打込ミヒラキ

は常樂の縁をさすどわか庭にハ

カシツメ右へサシ回レアトへヒラキ

角へユキ 右へハカク 回マラリ 角へ

正中ヨリ先へ

池水をたつた鳥は宿す池中の

出 角トリイ直シ

左へ回リ

樹僧はたそ月下は門出入る人

大小前ヨリ正へ出 指込

跡数々の袖をつるぬもすそを

ヒラキ

左右

打込ミイ 扇

染めて色多く者様はげよく

ヒラキ前へ出ス

詮ナガラ エゲ 扇ヒラキ

花の都る見佛會法のかずく

大左右(左へ三足出)

左一拍子

(扇フエケラマキ正へ行き)

順通れ縁はつやまの日夜朝暮

右足カケテ正中先へ打込ミヒラキ出

に懈らず九夏三伏の夏たけて秋

ヒラキ

身ヲ替へ正へ右足ヨリ三足出ヒラキ

来ふけりと驚かす洞底の松は風

右へ回リ

常座ヨリ指テ

聲のあきをもよひて上求善

ワメル

角ヘユキ
 提^テけ^キき^キを^ヲみ^ミせ^セ池^チ水^{スイ}よ^ヨう^ウつ^ツつ^ツ月^{ツキ}影^{カゲ}ハ
左ニテトメ正ヘ直シテガウ頭上ヨリ扇ガザシ正面上見
面ツ直シテ扇カガシ左ヘ回リ
 下^シ化^カ衆^{シュウ}生^{セイ}の^ノ相^{サウ}を^ヲえ^エら^ラたり^リ東^{トウ}北^{ホク}陰^{イン}陽^{ヤウ}
左右打込ミ下居トメル
 の^ノ時^ジ節^{セツ}も^モげ^ゲは^ハと^ト知^チれ^レた^タる^ルを^ヲ

蟬 丸 道行

花^{ハナ}の^ノ都^トを^ヲま^マち^チ出^デで^デ花^{ハナ}の^ノ都^ト
ヨク上テ
扇タ、ミ持下ニ居テ謡フ
 を^ヲま^マち^チ出^デで^デ憂^ウき^キ音^ネに^ニふ^フか
正ヘ出
中ニテ行キカハリ
立テ

鴨^{カモ}川^{カハ}長^{ナガ}末^{マタ}白^{シロ}河^{カハ}を^ヲう^ウち^チ渡^{ワタ}り^リ
左カケ右足ヨリ真直ニ常座ニユキ
サシマハシヒラキ
 栗^{クリ}田^タ口^{クチ}は^ハも^モ著^シき^キし^シか^カば^バ今^{イマ}誰^{ナニ}
右カケソキ正ヘハスニ
左一拍子

左ヨリ三足出

右カケワキ座ノ方正ヘハキ見テ左手ニテサシテガテ左足

をり松坂也。関也。なると思ひ

し。後。ある也。音。咽。山。の。名。残。

惜しむ都也。松出。鈴出。まきりく

すの鳴る也。夕陰。北山。科の里

人。も。と。む。む。よ。狂。女。ふ。い。ど。心

正へ打込。扇ヒラキ前へ出ス

は。清。瀧。川。も。知。べ。い。逢。坂。れ。せ

きの清水に影みそて今やひ

望月。女。胸。の。歩。も。と。近

づ。の。水。い。は。井。の。影。見

ま。び。我。を。ら。う。淺。ま。し。也。髪。は

筆九

廿二

打込ミナガラ行ヒキ 左ヨリニ足出正下ヲサシマハシ 左ヨリ正へ三足出テ下ヲ現

(左へ三足出)

左一拍子

(ワキ正へ扇ヲ上ゲテユキ) 右カケ正中先へ

地大 左 右

面ヲ上ゲテ

ヒラキテガテ

上ニアゲテカシラノ方ヘタラス

扇ヲロシ別ニサシテ角ニテキリト回リ

わざとを戴き 黛もみだれ

角ノ方ヘ出

扇ヲ平ニフセテ頭上ニカガシ

正ヘナラシテ下ヲ見ル

ろとてけし逆髪の影うろ

面ヲナラシ

扇カガシ左ヘ回リ

大小前ニテ左右打込ミ下居

水をかぐみと夕波のうろ

トメル

我が姿や

高砂キリ

シテ 扇ヒラキ持謡ナガラ立テ

ツヨク げに さまの 舞姫の 聲

右一足出シ左足ヲカケテ柱掛リノ方ヘサレ回シ見ル 正中先下ノ方ヲ見

も澄もほはの松影も

左ヨリニ足出

胸ガシヒラキ

左一拍子

つるある 青海波となれやん

上

左足ヨリ正ヘ出シ三足目カケテ角ヘユキ

角トリ

神と君との道すぐに 都の雲

ナラシ
に行くとべくはそれぞ還城樂の

笛座ヨリハスニ中へ出

左袖ヲ出シ見

舞地七千萬歳の小忌衣マラハ

左手ヲロストキ弱ニテ正指シ右地ノ前へマハリカヲ弱ヲ白シ角ノ方へ向キ右一足出シ指込ミヒラキ

さす腕には悪魔を拂ひ

両手ヒロゲ角ノ方へ中ヨリ先マテ出デ左手ニ弱先ヲ毛

杉をむろ手には壽福をとたま

正へ指テ角へユキ右へ回リ角へ出

弱カザシ

千秋樂は民を撫で萬歳

左へマハリ

樂にハ命をのぶ相生れ松風

大小前ニテ左右打込ミ下居トメル

風ツルの聲スぞたのむム

羽衣クセ

春霞たあびまにさると久方の月

桂の花を吹くげよ花むづら

色めくは春やまはるも面白

や天なるそよ風も妙なり天つ

扇タニ持下ニテ

立テ

左一拍子

右ウケ

正へ直シ

正へ出

風雲の通路中ニテ指込ミヒラキきよらよ少女は姿右ウケ

さげり右足ヨリ苗まりヤニ足ツメてゑの松原の春正面ヨリ右へサシマハシ

の色をぞキ三保の崎角へ行き角トリ直レ左へ回リ月清見湯富

士は雪大小前ヨリ真中へ出指込ミヒラキづり甲やまの曙甲たぐい波左右

も松風も長閑なも浦打込ミの有様ヒラキ

其上天地は中何を隔てん右へ回リ玉垣の内ナ

外の神前ヨリ正中へ出お末指込ミヒラキは月左右も曇打込ミ扇ヒラキら

ぬ日本前へ出スやま謡ナガラが代上げ扇は天ヒラキは羽衣

ま地ふ来大左右て撫左へ三足出づも左盡右きぬ心

ほ左一拍子あ(扇上げテワキ正ユキ)ぞとトレニル聞又く心ニ入妙心なり心東歌心

正中先へ打込ミナガラ出ヒラキ

身ヲ替へ正へ右足ヨリ三足出ヒラキ

聲右へ回リそへて常座ニテ左カケ正へ向キ数右へ回リは常座ニテ左カケ正へ向キ望常座ニテ左カケ正へ向キ笛常座ニテ左カケ正へ向キ琴常座ニテ左カケ正へ向キ盤常座ニテ左カケ正へ向キ候常座ニテ左カケ正へ向キ

孤雲の外右へ回リに右へ回リみ右へ回リち右へ回リく右へ回リて右へ回リ落右へ回リ日右へ回リの右へ回リ紅右へ回リは右へ回リ

蘇命右へ回リ踏右へ回リむ右へ回リ山右へ回リを右へ回リう右へ回リら右へ回リす右へ回リ緑右へ回リは右へ回リ波右へ回リに右へ回リ

浮島右へ回リり右へ回リ拂右へ回リふ右へ回リ嵐右へ回リ上右へ回リ花右へ回リより右へ回リそ右へ回リら右へ回リげ右へ回リば右へ回リ

雪左へ回リを左へ回リ廻左へ回リら左へ回リす左へ回リ白左へ回リ雲左へ回リは左へ回リ袖左へ回リぞ左へ回リ妙左へ回リり左へ回リ

昭和十二年三月廿八日印刷
昭和十二年四月一日發行

奥付
定價金一圓

著者 東洋家政女學校
發行者 東京市神田區神保町二丁目十 岸邊福雄
印刷者 東京市神田區神保町一ノ三四 尾藤光之介
印刷所 東京市神田區神保町一ノ三四 株式會社 開明堂

發行所 東京市神田區 神保町二ノ十 東洋家政女學校

372
487

終

